

項目 \ 震災名	阪神・淡路大震災 (局所的・大規模地震)	東日本大震災 (広範囲・大規模地震・津波)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ➢ 人口が密集した都市地域における局所的な被害 ➢ 被害は神戸市を中心に活断層に沿った比較的狭い範囲 ➢ 被災自治体は大中規模が多い ➢ コンクリート建物や構造物等の損壊による不燃物系廃棄物が比較的多い 	<ul style="list-style-type: none"> ➢ リアス式海岸地域等、農業・漁業が多い地域における広範な被害 ➢ 津波を伴う広範囲被害、混合廃棄物化 ➢ 被災自治体は、仙台市以外は小規模が多い ➢ 木造の損壊家屋由来の木屑が比較的多い ➢ 津波堆積物の混ざった塩分を含む廃棄物 ➢ 一部地域では、原発事故による汚染廃棄物が発生
マグニチュード	7.3M	9.0M
最大震度	7	7
主な被災地域	神戸市、西宮市、淡路島(20市町)	東北太平洋沿岸地域(13道県239市町村)
避難者数	約24万人	約47万人
災害廃棄物量	約2,000万トン	約2,000万トン
津波堆積物量	—	約1,000万トン

数値の出典:「阪神・淡路大震災について(確定報)」平成18年5月19日消防庁
 「東日本大震災記録集 概要」平成25年3月消防庁

阪神淡路大震災・東日本大震災と南海トラフ巨大地震・首都直下地震の概要

項目 \ 想定震災名	南海トラフ巨大地震 (広範囲・大規模地震・津波)	首都直下地震 (局所的・大規模地震)
特徴	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 津波による広範囲な被害が発生(24都府県) ▶ 混合廃棄物、塩分を含む廃棄物の発生 ▶ 災害廃棄物等の輸送路・仮置き場・処分場等の確保が困難 	<ul style="list-style-type: none"> ▶ 狭い地域に膨大な量の災害廃棄物が発生し首都機能が麻痺 ▶ 首都機能回復のため早期処理が必要 ▶ 廃棄物関連中枢機能喪失
マグニチュード	9.1M	7.5M
30年以内の発生確率	東南海地震70~80% 南海地震60%	70%
最大震度	7	7
主な被災地域	東海・近畿・中国四国・九州地方	茨木県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県
推定避難者数	最大 約950万人	最大 約700万人
推定災害廃棄物量 (東日本大震災比較)	最大 約2.5億トン (約13倍)	最大 約1億トン (約5倍)
推定津波堆積物量	最大 約5,900万トン	—

数値の出典:「南海トラフ巨大地震の被害想定について(第二次報告)」平成25年3月18日中央防災会議
「首都直下地震対策専門調査会報告」平成17年7月中央防災会議 首都直下地震対策専門調査会